

社会福祉法人 福岡あけぼの会 定款

第1章 総則

(目的)

第 1 条 この社会福祉法人（以下「法人」という）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

第二種社会福祉事業

- (イ) 障害福祉サービス事業の経営
- (ロ) 一般相談支援事業の経営
- (ハ) 特定相談支援事業の経営
- (ニ) 障害児相談支援事業の経営
- (ホ) 地域活動支援センターの経営
- (ヘ) 生計困難者に対する相談支援事業

(名称)

第 2 条 この法人は、社会福祉法人 福岡あけぼの会 という。

(経営の原則)

第 3 条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取り組みとして、精神障がい者とその家族を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するように努めるものとする。

(事務所の所在地)

第 4 条 この法人の事務所を福岡県福岡市南区大楠 1 丁目 3 5 番 1 7 号に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第 5 条 この法人に評議員 7 名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第 6 条 この法人に評議員選定委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選定委員会において行う。

- 2 評議員選定委員会は、監事 2 名、事務局員 1 名、外部委員 2 名の合計 5 名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は理事会が行う。評議員選定委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選定委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の 1 名以上が出席し、かつ、外部委員の 1 名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第 7 条 評議員の任期は、選任後 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第 5 条に定める定数に足りなくなる時は、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第 8 条

評議員には、その職務を行うために要する費用について、別に定める基準に従って算定した額を、支給することができる。

第 3 章 評議員会

(構成)

第 9 条

評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会に議長を置き、議長はその都度選任する。

(権限)

第 10 条

評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第 11 条

評議員会は、定時評議員会として毎年度 6 月に 1 回開催するほか、必要ある場合に開催する。

(招集)

第 12 条

評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第 13 条

評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行われなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第 1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 15 条の定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第 1 項及び第 2 項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 14 条

評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人 2 名が、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名
 - (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
 - 3 理事長以外の理事のうち、1名を副理事長、1名を常務理事とする。
 - 4 前項の副理事長、常務理事をもって社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び副理事長、常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、副理事長、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長及び副理事長、常務理事は、4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなる時は、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、または職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(役員損害賠償責任の免除等)

第22条 この法人は、社会福祉法第45条の20第1項の責任について、職務を行うにつき善意で且つ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して、特に必要と認める場合には、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第113条第1項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

- 2 この法人は、理事会の決議によって、外部理事、監事（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条第1項の非業務執行理事等をいう。）との間で、前項の損害賠償責任について、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第113条第1項に定める要件に該当する場合には、損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。ただし、その契約に基づく損害賠償責任の限度額は、金1万円以上であらかじめ定めた額と同条第1項第2号で定める額の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする。

（職員）

- 第23条 この法人に、職員を置く。
2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

（構成）

- 第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

（権限）

- 第25条 理事会は次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。
(1) この法人の業務執行の決定
(2) 理事の職務の執行の監督
(3) 理事長及び副理事長、常務理事の選定及び解職

（招集）

- 第26条 理事会は、理事長が招集する。
2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

（決議）

- 第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の総数の3分の2以上の同意をもって行う。
2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）

- 第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

（顧問）

- 第29条 この法人に顧問を置くことができる。
2 顧問は理事会の承認により、理事長が理事定数の範囲内で委嘱する。
3 顧問は理事長の諮問により、理事会に助言することができる。

第6章 資産及び会計

（資産の区分）

- 第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産、公益事業用財産の3種とする。
2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。
(1) 現金 500万円
(2) 福岡市博多区吉塚1丁目96番地1
家屋番号 96番1
「ほのぼのHaKaTa」
事務所・作業所 木造合金メッキ鋼板・スレート葺2階建
(1階95.92㎡、2階93.85㎡)
(3) 福岡市博多区吉塚1丁目96番1
「ほのぼのHaKaTa」

- 敷地 (173.93㎡)
- (4) 福岡市南区大楠1丁目637番地
家屋番号637番の3
「みらい」
工場 鉄骨造合金メッキ鋼板葺
平屋建 (91.39㎡)
- (5) 糟屋郡篠栗町大字篠栗字向田3697番地1
家屋番号3697番1
「はーとふる」
共同住宅 木造スレート葺2階建
(1階89.43㎡、2階89.43㎡)
- (6) 糟屋郡篠栗町大字篠栗字向田3697番地1
「はーとふる」
敷地 (227.04㎡)
- (7) 福岡市城南区荒江1丁目595番
「しのめ」
敷地 (118.24㎡)
- (8) 福岡市城南区荒江1丁目595番地
家屋番号595番の1～595番の3
「しのめ」
作業所・店舗 鉄骨造陸屋根3階建
(1階83.44㎡、2階89.70㎡、3階89.70㎡)
- (9) 糟屋郡粕屋町若宮1丁目73番地1、71番地2、72番地2、
74番地
家屋番号73番1
「ステップアップ」
事務所・作業所 木造合金メッキ鋼板葺2階建
(1階77.13㎡、2階75.48㎡)
- (10) 糟屋郡粕屋町若宮1丁目71番地2、74番地
家屋番号71番2
「ステップアップ」
作業所 軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
(173.90㎡)
- (11) 糟屋郡粕屋町若宮1丁目74番地、73番地1
家屋番号74番
「ステップアップ」
事務所・作業所 軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
(64.52㎡)
- (12) 福岡市博多区吉塚3丁目377番4
「サンサンはかた」
敷地 (105.16㎡)
- (13) 福岡市博多区吉塚3丁目377番地4
家屋番号377番4
「サンサンはかた」
居宅 木造スレートぶき2階建
(1階49.06㎡、2階48.44㎡)
- (14) 糟屋郡篠栗町中央4丁目4864番地3、4866番地3
家屋番号4864番3
「トライアングル」
事務所 鉄筋コンクリート造陸屋根2階建
(1階 107.19㎡、2階 121.92㎡)
附属建物1
浴場 コンクリートブロック造スレート葺平家建
(4.59㎡)
附属建物2
倉庫 コンクリートブロック造瓦葺平家建
(13.68㎡)
- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産は、第38条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必

要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第31条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、福岡市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、福岡市長の承認は必要としない。

- 1 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- 2 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）
- 3 社会福祉施設整備のための資金に対する融資を行う確実な民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合で、当該事業計画が適切であるとの関係行政庁による意見書を福岡市長に届け出た場合。なお、当該貸付に係る償還が滞った場合には、遅滞なく福岡市長に届け出るものとする。

(資産の管理)

第32条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第33条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けたうえで、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 資金収支計算書及び事業活動計算書
 - (5) 貸借対照表及び資金収支計算書及び事業活動計算書の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
 - 3 第1号の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
 - (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
 - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記した書類
 - (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第38条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

(イ) 区障がい者基幹相談支援センターの受託事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の総数の3分の2以上の同意をもって行う。

第8章 解散

(解散)

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第40条 解散（合併又は破産による解散を除く）した場合における残余財産は、評議員会の決議を経て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第9章 定款の変更

(定款の変更)

第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、福岡市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を福岡市長に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

(公告の方法)

第42条 この法人の公告は、社会福祉法人福岡あけぼの会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	有吉時寛
理事	藤島芙美子
〃	古野美根子
〃	宮崎宏之
〃	内原守
〃	菅野康子
〃	三木房子
〃	吉浦秀紀
〃	北田悦子
監事	大谷鮎子
〃	井上秀文

改 正

平成16年11月17日改正
平成18年 1月17日改正
平成20年10月 8日改正
平成23年12月13日改正
平成24年12月26日改正
平成26年11月15日改正
平成28年 5月 2日改正
平成29年 4月 1日改正
平成29年 6月27日改正
平成30年10月16日改正
令和 元年10月10日改正
令和 2年 7月17日改正
令和 2年12月 1日改正
令和 3年 7月15日改正
令和 3年10月 8日改正
令和 5年 9月15日改正
令和 5年12月21日改正
令和 6年 6月25日改正

この写しは原本と相違ないことを証明します。

令和 年 月 日
社会福祉法人 福岡あけぼの会
理事長 判田章江